



『三浦大助百六寿』

横須賀美術館「運慶
連続講座（第1回）」

鎌倉幕府と三浦一族」展

2022年7月24日（日）16時～17時

絵図からみる 三浦一族と横須賀

横須賀市立中央図書館郷土資料室 谷合伸介

本日の流れ

1. 三浦一族とは
2. 中世矢部郷と三浦一族
3. 「相模国三浦郡大矢部村略絵図」からみる
三浦一族の足跡

まとめ

三浦一族とは？

三浦一族のはじまり

- 為通(初代?) ...
 - 前九年の役で源頼義に従軍。戦功により三浦を所領として与えられたとされ、三浦氏の初代とされる。
- 為継(初代?) ...
 - 後三年の役で源義家に従軍。為継を三浦氏の祖とする見方もあり。
- ↓
- 義継 ...
 - 三浦の地を摂関家に寄進し「三浦庄司」を称す。(同時代史料で「三浦庄」は見当たらないので、「三崎庄司」のことか)
- ↓
- 義明 ...
 - 国衙の在庁官人(的存在)
 - 地方役所で働く役人(関係者)のなかの有力者。
 - 「三浦介」あるいは「三浦大介」と称す。
 - 衣笠合戦で死没 → 頼朝への忠義
 - 義明の働き → 鎌倉幕府で三浦一族が重責を担う端緒となる。

主な三浦一族の系譜

- ・三浦一族は、様々な家に分かれていく。
→なかでも代表的な系譜が、①三浦宗家、②和田氏、③佐原氏。
 - ・三浦義明の子の系譜が、①～③に分かれていく。
- ①三浦宗家 → 杉本義宗が戦死し、義明の後の三浦宗家を次男の三浦義澄が継ぐ。三浦一族の惣領家。泰村の代に宝治合戦で敗れ滅亡。
- ②和田氏 → 長男の杉本義宗が戦死。あとを継いだ子の義盛が和田姓を称し、以後和田家が始まる。和田合戦で敗北し滅亡。北条方に与した一部は、以後、越後和田氏として生き残る。
- ③佐原氏 → 義連を始祖とする。三浦宗家が滅亡した後も、宝治合戦で北条方に味方した佐原家は生き残り、佐原盛時は三浦宗家に替わって三浦姓を称し、「三浦介」を継承する。室町・戦国期まで活躍。

主な人物① ～三浦義明～

- 相模国衙の関係者。国衙の雑事にあたる有力者で、「三浦介」と呼ばれた。
cf) 国衙 → 律令制下で、諸国に設置された政庁のこと。
- 源頼朝挙兵後の衣笠合戦での奮戦。
→ 石橋山合戦で頼朝敗北後、河越重頼・畠山重忠・江戸重長ら平家方は頼朝に与した三浦一族の居城衣笠城に攻め寄せた。その際、義明は衣笠城に籠り奮戦。子の義澄ら一族は城が落ちる前に安房に逃れ、源頼朝と合流。義明は敗死。
- 義明の源頼朝への忠義は、後世に伝説化。
→ 「三浦大介百六つ」など

主な人物② ～和田義盛～

○数々な合戦で活躍(源平合戦、奥州合戦など)

○鎌倉幕府での活躍

- ・侍所別当(御家人の統括する軍事部門の長官)
- ・鶴岡八幡宮の奉行
- ・13人の合議制のメンバーの1人
- ・「宿老」と呼ばれる幕府の重鎮の1人
- ・美作守護

○和田義盛とその妻小野氏、仏師運慶に毘沙門天立像・不動明王立像を造立させ、供養を行う(仏像は芦名の浄楽寺に残る)

主な人物③ ～佐原義連～

○源平合戦及び奥州合戦での活躍

- ・一ノ谷の合戦の鶉越の坂落しでは一番乗りを果たしたと伝えられる。

○源頼朝から強い信頼を得る

- ・頼朝面前での上総広常と岡崎義実の口論を仲裁したことで評価を得る。
- ・頼朝の近臣。頼朝の寝所警固をつとめた11名の中の1人。

○北条氏とのつながり

- ・頼朝の命により、北条時連（時政の三男。のちに連署をつとめる時房）の鳥帽子親となる。

○和泉・紀伊両国の守護をつとめる。

主な人物④ ～三浦義村～

- 源頼朝没後の御家人同士の様々な対立のなかで、北条氏の側に与し、生き残っていく。(梶原景時の乱、比企氏の乱、畠山重忠の乱、和田合戦、承久の乱など)
- 自らの娘(矢部禅尼)を北条義時の子・泰時に嫁がせるなど、北条氏とのつながりを深めた。
- 鎌倉幕府では、永福寺の奉行・御厩別当(馬や牧の管理を掌る)・侍所所司・評定衆などを担った。
- 全国各地(相模・土佐・河内・紀伊・讃岐・淡路)の守護をとつとめた。

Cf 守護→諸国の軍事・警察業務を掌る

◎義村の頃、三浦氏は北条氏に匹敵する力をもつようになる。三浦氏の最盛期を築き上げる。

三浦一族と大矢部

大矢部の位置図



『新横須賀市史 通史編 自然・原始・古代・中世』520頁

「図3-10 室町時代の禅宗寺院の分布」を一部修正のうえ作成。

昭和30年の大矢部



中世矢部郷と三浦一族

- 中世矢部郷は、現在の横須賀市大矢部・小矢部付近一帯とされる（江戸時代の大矢部村も中世矢部郷の範囲の一部と考えられる）。
- 三浦一族の本貫地とされ、近くに居城の衣笠城がある。
- 源頼朝が、衣笠合戦で没した三浦義明の菩提を弔うため、「三浦矢部郷内」に一堂を建てようとし巡検させる（『吾妻鏡』建久5年〈1194〉9月29日条）。（史料1）
- 北条時頼が「三浦矢部別庄」で暮らす祖母矢部禅尼（三浦義村の娘）のもとに下文を届けに赴く（『吾妻鏡』嘉禎3年〈1237〉6月1日条）。（史料2）
- しかし、宝治合戦で三浦泰村をはじめたとした三浦宗家が滅亡後、将軍藤原頼嗣は「相模国谷部郷」を鶴岡八幡宮に寄進する（「鶴岡八幡宮文書」宝治元年〈1247〉6月20日）（史料3）
- 佐原盛信が、父光盛の13回年遠忌にあたり、板碑を造立（文永8年〈1271〉）（史料4）。円通寺山腹の岩窟傍らに残された。

「相模国三浦郡大矢部村略絵図」とは？

- ・大矢部村の名主を代々つとめた島崎家に伝来した「島崎家文書」(現在は横須賀市立中央図書館所蔵)を出典とする絵図。
- ・江戸時代の文政8年(1825)に作成。
- ・「島崎家文書」には、この絵図のほかにも数点の絵図が残されているが、そのなかでも、最も詳細に村の様子が描かれている。

大矢部村絵図にみる三浦一族の足跡

①円通寺

- ・三浦氏の祖と伝わる三浦為通が開基とされる寺院。
- ・江戸時代後期には、寺は衰退し、清雲寺の末寺となる。
- ・円通寺裏の山腹には21のやぐらがあり(深谷のやぐら群)、ここに三浦一党93基とされる墓があった。また、最頂部の岩窟には三浦為通・義継の廟所や佐原盛信の板碑があった。
- ・明治初期に廃寺。
- ・昭和14年、円通寺跡周辺の土地を海軍が収用。三浦為通・義継の墓・三浦一党93基の墓・板碑などは清雲寺に移される。



三浦為通・義継廟所
大正8年(1919)

大矢部村絵図にみる三浦一族の足跡

②清雲寺

- ・三浦為継が開基とされる寺院。
- ・和田義盛の身替わりに敵の矢を受けたとされる木造毘沙門天立像(矢請けの毘沙門)が残る。



清雲寺 大正8年(1919)

- ・江戸時代後期、円通寺の本尊であった木造観音菩薩坐像(滝見観音)が清雲寺に移され、清雲寺の本尊となる。
- ・昭和14年、円通寺跡一帯を海軍が収用したため、三浦為通・義継の墓・三浦一党93基の墓・佐原盛信の板碑などは清雲寺に移される。

大矢部村絵図にみる三浦一族の足跡

③満昌寺

- ・源頼朝が衣笠合戦で討死した三浦義明の菩提を弔うため建立したとされる寺。
- ・鎌倉時代造立の木造三浦義明坐像が祀られている。
- ・本尊の宝冠釈迦如来坐像の像底の銘→「相模国三浦大助義詮百六迄之守本尊万歳とと歳」(文安元年<1444>)→伝承「三浦大介百六つ」(長寿の祝い言葉)の原形が中世にすでにあった可能性。

④大介松

- ・三浦義明の腹切り松。衣笠城を打って出た義明が最期を迎えたとされる場所。

⑤山頂宮

- ・三浦義明の愛馬を祀っていた社。大正初期に姿を消した。

★ ③～⑤は、三浦義明ゆかりの場所。

(参考) 三浦大介腹切松の変遷

大正8年(1919)



令和3年(2021)



大矢部村絵図にみる三浦一族の足跡

⑥薬王寺

- ・和田義盛が、父杉本義宗及び叔父の三浦義澄の菩提を弔うため建立したと伝わる寺院。
- ・明治9年(1876)に廃寺。現在は旧跡として、三浦義澄の墓、駒繋ぎ石が残される。また、薬王寺跡のやぐら内にあった板碑2基(元応2年〈1320〉の銘あり)が満昌寺に移されている。

⑦鎮守社(近殿神社)

- ・もともとは浅間神社だったが、享和年間(1801~04)に、三浦氏の末裔を称する美作国勝山藩主三浦志摩守と紀州藩主家老の三浦長門守により、三浦義村を祭神とする近殿神社に替えられた。

⑧ゲバハシ(下馬橋)

- ・衣笠城があった頃の遺名として伝えられていた橋。

まとめ

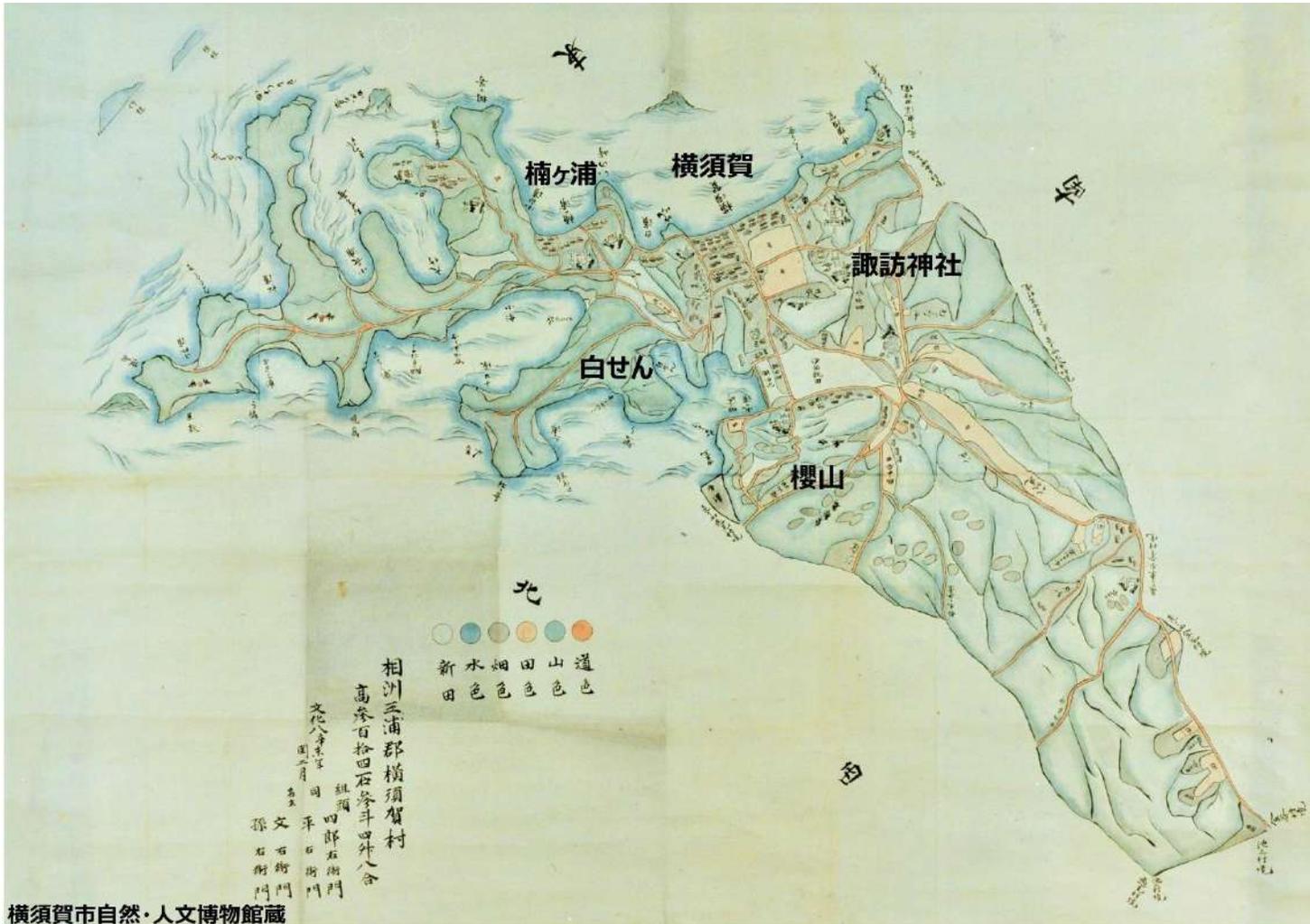
○中世矢部郷の一部であった大矢部には、特に三浦一族の始祖の墳墓や義明以後の三浦宗家に関する旧跡等が残る。

○矢部郷は、三浦一族の本貫地とされたが、宝治合戦で三浦宗家滅亡後は、鶴岡八幡宮領となる。

○江戸時代も大矢部には三浦一族ゆかりの寺社等が数多く残っていたが、その一部は、明治以降、廃寺や合祀されるなどして、姿を消すものもあった。

◎「相模国三浦郡大矢部村略絵図」には、明治以後、姿を消した三浦一族ゆかりの寺社等も描かれている。三浦一族の旧跡が数多く残っていた江戸時代の大矢部の景観を今に伝えている。

もう一つの三浦一族ゆかりの地・横須賀郷（補足）



左の絵図は、江戸時代の横須賀村の絵図。横須賀村は中世の横須賀郷の一部に含まれた。横須賀郷は、現在の横須賀市汐入町・緑が丘・本町・稲岡町・楠ヶ浦町・泊町・逸見一帯。

- 矢部郷は、三浦一族の本拠地であり三浦宗家ゆかりの地。しかし、鎌倉中期の宝治合戦で三浦宗家は滅亡し、所領は没収。



- 横須賀郷は、鎌倉～戦国時代（後北条氏の時代）までの中世のほとんどの期間、三浦一族が所領とした。

⇒横須賀市中心部も三浦一族ゆかりの地

その他の三浦一族の旧所



住吉神社(久里浜)
古くは栗浜明神と称され、源頼朝や源頼家が参詣した。



一騎塚(武)

和田合戦の際、武次郎がここから単騎で鎌倉に参じ戦死したのを、後の里人が哀れんで塚を築き、吊ったとの伝承から、その名がついたとされる。

怒田城跡(吉井)

衣笠合戦の際、和田義盛が衣笠城を出て要塞堅固な怒田城で戦うことを献策したことで知られる。

十二所神社(芦名)

古くは三浦十二天と称され、中世を通じ、三浦一族の氏神として崇敬された。

